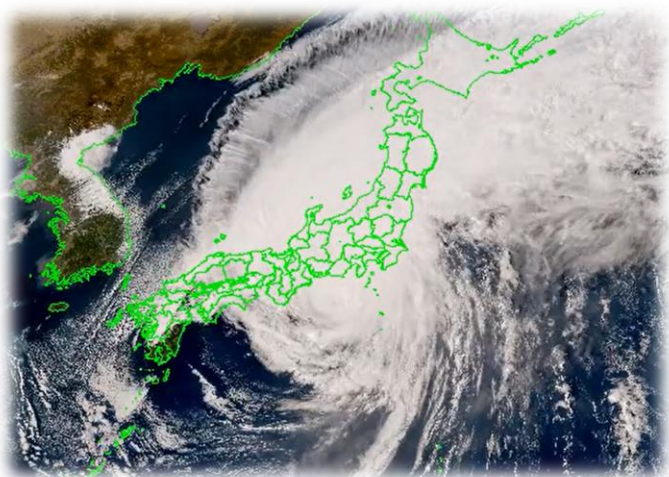


台風等による風水害や土砂災害に注意！！



令和元年10月 台風19号の衛星画像

出典：気象庁ホームページ (<https://www.jma.go.jp/jma/index.html>)

これから秋にかけては、日本に接近・上陸する台風が多くなる時期です。近年は気候変動の影響により、過去に経験したことのない大雨が降り、毎年のように全国各地で甚大な被害が発生しています。

台風や大雨は、地震のように突然襲ってくるものではなく、事前にある程度予測できます。気象庁が発表する情報やニュース等をこまめに確認し、被害を最小限に抑える備えをしましょう。

国土交通省が運営するウェブサイトで、あなたの住む地域のさまざまなハザードマップがご覧になれます。

(洪水、土砂災害、津波、道路防災情報等)
サイト内から各市村ホームページ内のハザードマップを参照できます。



★ハザードマップポータルサイト

URL：<https://disaportal.gsi.go.jp/>

今からできる備えのチェックポイント！

- 避難する場所やルートの確認
- 飲料水、非常食の備蓄（最低3日分）
- 家族同士の安否確認方法の確認
- 常備薬、眼鏡、コンタクト等の身の回り品
- 生活用品の備蓄（ティッシュ、ライト、電池等）
- 雨戸、屋根、アンテナの補強・固定



雨の予報用語

やや強い雨：ザーザーと降る雨（長く降り続く場合は注意）

強い雨：どしゃ降り（小規模なげ崩れに注意）

激しい雨：バケツをひっくり返したような雨（災害発生の恐れあり）

非常に激しい雨：外出困難な滝のような雨（災害が発生する危険が高く、警戒が必要）

猛烈な雨：圧迫感があり息苦しく恐怖を感じる雨（災害発生の恐れが極めて高くなり、嚴重な警戒が必要）



警戒レベル5

緊急安全確保

直ちに命を守る行動を！

警戒レベル4までに必ず避難！！

警戒レベル5になってからでは、安全に避難をすることが難しい状況となります。

警戒レベルが4になった時点で、各地域指定の避難場所に避難してください。

警戒レベル4

避難指示

対象地域の方は**全員**速やかに避難を！

警戒レベル3

高齢者等避難

自主的に避難を始めましょう

警戒レベル2

大雨・洪水・高潮注意報

避難場所、避難経路を再確認しましょう

警戒レベル1

早期注意情報

最新の防災気象情報を確認しましょう

岳北消防本部

【お問い合わせはこちら】

- 飯山消防署
- 野沢分署
- 栄分署
- ホームページ

TEL 62-0119 FAX 62-3347

TEL 85-4119 FAX 85-3050

TEL 87-1119 FAX 87-1120

<http://www.iiyama-catv.ne.jp/~gakuhoku/>



夏は熱中症に注意！！



熱中症とは、高温多湿な環境に長時間さらされることで、体温調節機能がうまく働かなくなり、体内に熱がこもった状態のことをいいます。

◎熱中症の症状

- ・めまい
- ・立ちくらみ
- ・吐き気
- ・頭痛
- ・倦怠感

◎熱中症予防のポイント

- ・のどが渇く前に水分補給
- ・水分だけでなく塩分も補給
- ・日陰で適度に休憩
- ・栄養バランスのよい食事
- ・日傘や帽子の着用

◎熱中症の応急処置

- ・日陰など涼しい場所へ移動
- ・服を脱いで冷却
- ・氷のうで首、脇の下、太ももの付け根を冷やす
- ・水分と塩分を補給

意識がもうろうとしたり、体温が極端に高い場合は **すぐに119番！！**



救急隊が行うプレアライバルコールについて



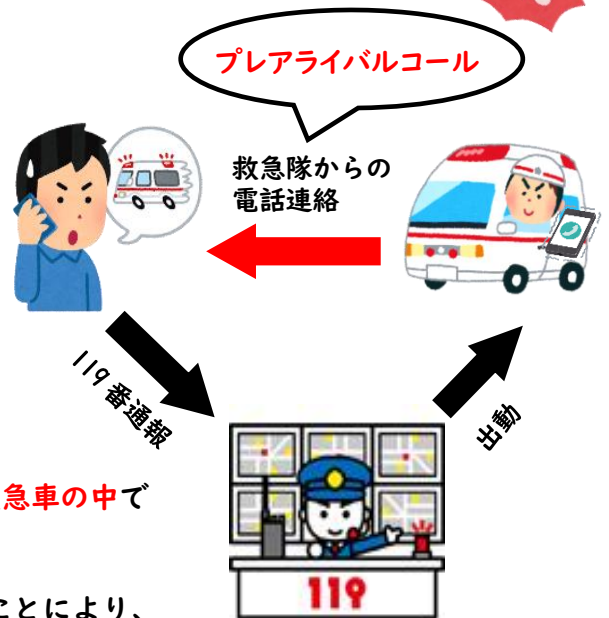
・プレアライバルコール（現場到着前電話連絡）とは

現場へ向かっている救急隊から、傷病者やその関係者に直接電話連絡し、事前に情報収集を行うことを言います。

岳北消防本部では、救急活動時間を短縮し、いち早く病院へ搬送するための体制づくりの一環として、救急隊によるプレアライバルコールを実施しています。

・プレアライバルコールの効果

- ① 本来、救急現場で聴取する傷病者情報等を、現場へ向かっている救急車の中で事前に聴取するため、現場滞在時間の短縮につながります。
- ② 刻一刻と変化する傷病者の状態をリアルタイムで把握することにより、救急現場に到着した際に、適切な処置を迅速に開始できます。
- ③ 119番通報時に、通信指令員が行う応急手当の口頭指導とは別に、救急隊からも必要に応じて口頭指導ができます。



救急出場の際に円滑な救急活動を行うため、状況に応じて救急隊から直接電話連絡することがありますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

古くなった住宅用火災警報器は交換を！

住宅用火災警報器は古くなると電子部品の寿命や電池切れなどで、火災を感知しなくなることがあります。

「もしも」に備え、10年を目安に機器を交換しましょう。

